

国語教育相談室

小学校

no.

80

光村図書

特集

随筆を書く

わたしと
ことば

さよなら。

緒方修一

悩み
解決

夏休み明けの授業

教材
研究

「わたしは
おねえさん」
(二年下)

書写

書写とよい出会いを

教材の挿絵変更についてのお知らせ
平成26年度用教科書 訂正箇所



青山由紀／著
吉永直子／まんが

A5 版変型 (200×220mm)
168ページ
定価1,400円＋税
ISBN978-4-89528-683-1

も 好きになる 古典が

授業
アイデア10
青山由紀の
まんがで見る

好評
発売中！

「国語教育相談室」で好評連載していた、
青山由紀先生の「古典って楽しい！」が本になりました！
小学校古典の授業を、まんがで分かりやすくご紹介。
そのまま授業に使える資料も豊富に掲載しています。
古典の苦手な先生、若い先生、
ちよとユニークな授業をしたい先生におすすめです。



- まんがで見る授業の様子
- 具体的な学習のねらい
- 分かりやすい指導のポイント
- そのままコピーして使える資料

[取り上げた教材]
竹取物語／昔話「桃太郎」／枕草子／
平家物語／季節の童謡・唱歌／
春の短歌・俳句／俳句を作る／
故事成語／漢詩／論語

光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.155 2013(平成25)年9月19日発行 定価126円(税込)
発行人＝常田 寛 発行所＝光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp
印刷所＝協和オフセット印刷株式会社 デザイン＝ 岡田真理子 (mg)

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。詳しくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。

さよなら。

岬の小さなカフェを訪ねるのは二度目だった。最初は作家と編集者、カメラマンと能登の風土を体感する男ばかりの車の旅であった。貴重な漆塗りや建物をたくさん見せてもらったが、私は夏の陽で艶やかに光る黒い屋根瓦に魅了されていた。泊まった宿の主が「近くに珈琲の飲める店がある」と、そのカフェを教えてください。やはり自分たちは珈琲が必要な類の人間に見えるのかと内心苦笑した。女主人の祖父が使っていた船蔵を改装した店で淹れた珈琲を、日本海を望む外の原っぱで飲んだ。夏風が気持ちいい。「冬はこの風が吹雪いてほとんど営業できなくなるので、地元の人みんなお店をやるのは無茶だって言います」と女主人は言った。

二年後、私はまた能登を訪ねることになった。念願の黒い屋根瓦に専念できる取材であった。あのカフェが遠くないことはわかっていたが、きつとあの店は閉じたのだろうと思っていた。不便さ以上に、あの女主人に商売は馴染まない気がしていた。確認のつもりで岬に行くと思惑は外れて、カフェは遠方から来たカップルで盛況、女主人は奥で忙しそうだった。そんな景

色を見ると、すうっと流してしまふところが私にはあって、頼んでしまった珈琲を急いで飲み干して勘定をした。釣り銭を渡す若い男の店員は「あのう、雑誌かなにかの取材の方ですか？　うちの主人は店が忙しくなるんでこれ以上取材はお受けしないと思いますよ」と言った。誤解をそのままにして私が「君はいつから働いているの？」と聞くと「ネットでこの店見つけて、去年、彼女と来たら気に入っちゃって。すぐ二人で引越して来て、今は働かせてもらってます」と、夢見た場所にいられることに、にっこりした。

車での移動を再開すると、赤信号でバックミラーに私たちを追いかけてくる車が映った。振る手の感じであの店の女主人だとわかった。「す、すみません。きつとあの子が失礼な言い方をしたと思うんでお詫びにきました。」「ご挨拶しようと思ってたんですけど慌ただしくて……。すぐにお帰りになったと聞いて……」と言った。額から汗が一雫こぼれ落ちた。私は恐縮したが彼女のこれからの旅を思い「わざわざありがとうございます。さよなら」というのが精一杯であった。

本を作る仕事をしながらいつも、あの若者のように、何か守りたい、という気持ちを羨ましく感じる反面、私は遠いところに来てしまった気がする。固まった心はなるべく自由にしたいと思っている。一冊の本を読んだ後も、本を読む前と同じ生活ができるようでは、少しばかり淋しいから。



1963年、福岡県生まれ。装幀家、アートディレクター。新潮社装幀室を経て独立。これまで、沢木耕太郎、宮部みゆき、宮本輝らの書籍や、「百年文庫」(ポプラ社)、「エクス・リブリス」(白水社)、ロアルド・ダールなどのシリーズを手がける。最近の装幀に、平田俊子『スバラしきバス』(幻戯書房)、沢木耕太郎『あなたがいる場所』(新潮社)など。平成23年度版小学校『国語』教科書のアートディレクションを担当。

CONTENTS

わたしとことば さよなら。 緒方修一

特集 02 随筆を書く

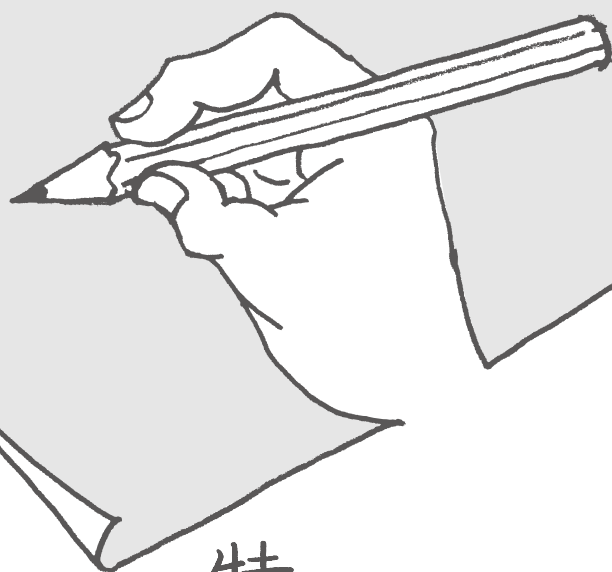
対談 「かっこいい書き方」を楽しもう 青山由紀×宗我部義則
授業のヒント 青山由紀

その悩み、解決します! 5 12 夏休み明けの授業 松永立志・安田恭子

教材研究のススメ 7 16 「わたしはおねえさん」(2年下) 興水かおり

子どもたちを「書写好き」に 1 20 書写とよい出会いを 藤井浩治

24 絵本を原典とする教材の挿絵変更についてのお知らせ
平成26年度用教科書 訂正箇所のお知らせ



特集

随筆を書く

「随筆を書く」ことは、小学校学習指導要領で明示されている言語活動です。しかし、「いわゆる作文の指導」とどう違うのか、どこを変えようといのか」という、先生方の声をよく耳にします。

中学校での「書くこと」を見据えながら、小学校高学年で随筆を書くことの意味、どのようなものが書ければよいのかを考えることで、指導のヒントを探れたらと思います。

撮影：鈴木俊介

対談

「かつこいい書き方」を楽しもう

筑波大学附属小学校教諭
青山由紀

お茶の水女子大学附属中学校教諭
宗我部義則

随筆を授業に位置づけるとき、何を大切にしたらよいのでしょうか。そもそも、どんな文章が書ければよいのでしょうか。アイデアあふれるさまざまな実践を、小学校でされている青山先生と、中学校でされている宗我部先生に、「随筆を書く」という授業について語り合っていました。

「随筆を書く」実践

青山 学習指導要領で「随筆」の明示があるのは、「書くこと」の領域のみです。でも、読んだことがないものは書けませんから、実際には、随筆を読んだから書くという流れで指導することになります。

宗我部 教科書ではどのように教材化されているのでしょうか。



青山 「自分を見つめ直して」(六年P182)という教材があります。初めに「ふわふわの雪」という中川李枝子さんの短い随筆とともに、随筆についての説明が示されています。その後、題材探しのための語群と児童作例をもとに随筆を書くという流れです。モデルとなる文章を読んで理解してから書くということですね。

宗我部 先生は、どのような実践をなさったことがありますか。

青山 実践として初めて取り組んだのは、十年ほど前です。随筆を幾つか読んだ後に、「十二歳、私の主張」という題名で随筆を書くというものです。子どもが読める随筆的な文章が世の中に増え、読書の際に随筆を選ぶ子が多くなってきたのもあって、学習に位置づけてみたんです。

宗我部 子どもたちは読書をする中で随筆に出会ってきていたわけですね。

青山 ええ。五年生の頃から、「天声人語」などを読むことは続けていましたしね。授業では、『自分の木』の下で『大江健三郎／朝日新聞社』と『対訳 21世紀に生きる君たちへ』(司馬遼太郎／朝日出版社)を取り上げました。どちらも、子どもに向けたメッセージが書かれています。それで、その後、自分の生活をヒントに、伝えたい相手に向

青山 以前、五年生の「論語」の学習の中で、随筆的な文章を書かせたことがあるんです。教科書の論語の意味を確認した後、自分が選んだ論語を使って、生活の中の具体的なエピソードや自分の考えを書くというものです。論語をよりどころにしながらエピソードや自分の考えを吟味することができ

るので、子どもたちは、自分のことを抵抗なく書いていましたね。「何にかこつけて」書けるような状況設定を、教師が用意する必要はありそうです。随筆って、自分をさらけ出す、自分を見つめることが大事だと思いますから。

宗我部 そのやり方は、私も考えたことがあります。中学生だと、なおさら、自分をさらけ出すようなことはしないので、文体や書き方のスタイルを借りるという形をとるほうがいいものが出てくる。「こう書く」というテクニク的なことではなくて、子どもたちが自分を開くための手立てなんですよ。

エピソードと対象化

宗我部 そもそも「どういう文章が随筆なのか」が、現場の先生方の一番の悩みどころなのではないかと思います。先生は、授

けたメッセージを書くという流れにしました。「卒業単元」として行った実践なので、やや意見文に近いものになっています。

自分を出させる工夫が必要

青山 このときに感じたのは、六年生って、そろそろ自分を出したがいなくなる時期だということですね。「かつこいいメッセージを語るの、かつこ悪い」という雰囲気がある子どもたちの中に出てくるんです。

宗我部 経験上、よく分かります。中学生ぐらいになると、自己開示させる工夫が必要ですね。「自分を開け」と言っても開かない子どもたちですからね。

青山 このときは、まず伝えたい相手とメッセージを決めて、それを伝える具体例

業で子どもたちに書かせるとき、どのように考えていらつしやいますか。

青山 私は、小学生段階ということも踏まえて、「想定する相手に伝えたい思いや考え、メッセージと、それを伝えるための具体的なエピソードが語られていること」が必要だと考えています。メッセージというと少し意見文に近いけれど、随筆として書かせるので、文章全体としての主張が明確でなくてもいい。だから、「ぼんやり伝わってくる」という文章でも、よしとすることができるとは思います。

宗我部 中学校の学習指導要領には随筆を書くことは明示されていませんので、多様な文種の文章を書くという意味で考えていくことになりそうです。私自身は、「書こうとする物事を対象化しているかどうか」が、随筆が、いわゆる作文とは違うところなん

としてエピソードを考えさせました。それから、これまでに読んできたものをもとに、誰の文体に倣って書くかを決める。例えば「大江健三郎」風だと「——」が多いとか、子どもたちなりに特徴を見つけ、まねて書いていました。「○○風」と、誰かの文体に乗せることで、恥ずかしがらずに自分を出して書くようになるというのが、このとき分かったことです。

宗我部 私もよく考えています。役割や立場などに仮託した形で書かせると、自分の中にあるものが全て出てくるんですよ。

青山 自分を出さなければ、低学年の「したこと作文」と同じです。だからこそ、この言語活動が高学年に位置づけられているのだと思うのですが、指導の際にはひとひねり必要ですね。

宗我部 ええ。

だと思えます。随筆には、自分がある出来事の渦中にいて思ったことを、今、自分はこう思っているか、ということが書かれている。この部分が、先生のおっしゃるメッセージに当たるんでしょう。

青山 なるほど。
宗我部 最近の自分の実践を思い返して、「随筆」といえるものがありました。中学校三年生の『おくの細道』の学習です。『おくの細道』を読んだ後、「私にとっての旅とは」「旅を生きる」「旅を思う」などの中から選んだ題名で文章を書くことを、学習のゴールとしました。芭蕉の文章や言葉を必ず引用し、自分にとっての旅について書くんです。そうして書きあがったものが、まさに随筆だったんです。

例えば、こう書いた子がいました。「芭蕉のように、何もかも捨てて旅立つことに



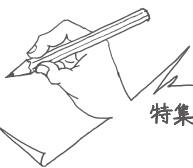
あおやま ゆき
青山由紀

東京都生まれ。筑波大学大学院修士課程修了。私立聖心女子学院初等科を経て、平成10年より現職。日本国語教育学会常任理事、全国国語授業研究会常任理事。著書に『古典が好きになる』(光村図書)、『板書きれいで読みやすい字を書くコツ』(ナツメ社／樋口咲子共著)などがある。光村図書 小学校『国語』教科書編集委員を務める。



そがべよしのり
宗我部義則

埼玉県生まれ。お茶の水女子大学附属中学校教諭。お茶の水女子大学非常勤講師。国立教育政策研究所「教育課程実施状況調査問題(中学校国語)」作成および分析委員。平成20年告示「中学校学習指導要領解説国語編」作成協力者。編著書に『群読の発表指導・細案』(明治図書出版)など。光村図書 中学校『国語』教科書編集委員を務める。



随筆って、

書くことで自己成長が促されるもの。

青山

対象化の工夫

は憶えるけれど、結局、私たちにそれはできないだろう。そして、だからこそ旅に憶れる」。自分が思う旅のイメージ、そう思う自分を対象化して見たときに思うことが書かれています。小学生には少し難しいかもしれませんが、ぜひ読んでね。

青山 一段高い、「メタ」な視点から自分を見るわけですね。

宗我部 そうです。子どもは自覚していませんが、それがまさに「自分を語る」ということ。おそらく、対象の見方と表現のしかた（文体・スタイル）、この二つが合体したときに、いわゆる随筆という文種が立ち現れるのでしょう。先生のご実践にもその両面が仕込まれていました。「この二つを意識して書かれていればいいじゃないか」と、開き直れるといいですね。なにしろ、一番に味わわせたいのは、自己を表現していく楽しさです。

な表現では、随筆としての価値が軽くなってしまうものね。

宗我部 あとは、「世の中ではこう考えられている。でも、自分は——」と、「逆接の接続詞を入れる」という型をもって書くことでも、対象化が進みそうです。

青山 述べ方のパターンを知っておくのはいいですね。表現力の素地になります。

宗我部 そうです。そして、型のようだけれど、実は、これこそ「見方」そのものなんじゃないでしょうか。そんなに広く世の中の見方が語れるような経験をもっていない子どもたちです。「世の中では——」と書いていても、それは自分のそれまでの見方が投影されたもの。だから、逆接を使



対象化の工夫

青山 どんな出来事をエピソードとしてとるかで、小学生でも、ある程度の対象化はできる気がします。エピソードには、出来事の当事者として自分が渦中にいるものと、出来事を見聞きしたというものがあるでしょう。見聞きした時点で、後者にはすでに「メタ」な視点が含まれている。だから、こちらを取り上げることで、対象化のハードルはぐっと低くなるように思うんです。

宗我部 おっしゃるとおりだと思います。とても難易度の高いことですから、最初からある程度、対象化できているものを取り上げるというのはいいですね。自分の中からあふれ出す言葉を自由に紡がせることももちろん必要ですが、自分を出しやすい形を用意するのはとても大事なことのような気がします。

青山 題名の与え方によっても、対象との距離を作ることができそうです。先生がな

うことで、そのときに改めて考えて気づいた見方が引き出されてきます。



自分を書き表す 楽しさを大切に

青山 『おくの細道』の学習の後、子どもたちの、ものを見る目に何か変化はありましたか。

宗我部 「物事をちよつと俯瞰^{ふかん}して見る」「何気ないものに目を留めて、意味づけする」など、「見方」をもち帰ってくれたような気がしますね。先生はいかがでしたか。

青山 物事の見方を少し意識するようになったと思います。ただ、それには交流がポイントです。友達の文章を読んだ後の「こんな角度からの見方があるのか!」という気づきは心に残るものですから。そして、子どもたちはこれを楽しんでいるので、書くことへの抵抗が和らいだようでした。

宗我部 そういう気づきが、中学校へと



さったように、「私にとっての○○」とすると、評価や価値づけせざるをえなくなる。

宗我部 なるほど。「私にとって」と語るときに、「こうあるべきだと自分は思う」というのがより強く出れば意見文や論説文に近づくし、「こんなよさや特徴がある」というのがより強く出れば評論文に近づく感じがしますね。それと、「私にとって」と書くときには、それを経験したり見聞きしたりした「自分にしか」書けないものを求めたいと思います。一見、典型的でステレオタイプのようなでも、その子が自分の経験の中で見つけてきた瞬間が表れていれば、文章になったときの力は全く違ってきます。そういう瞬間を捉えられる手立てを考えることが大事です。

青山 経験が表れていないステレオタイプ

つながるのでしょうか。でも、きつと実際は、随筆を含めた多様な文種を書くうちに、徐々に芽生えてくるものだと思います。「一度書いたら、劇的に変わった」という、カッコいいものではないんですけどね（笑）。

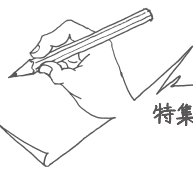
青山 随筆って、書いたことや書くために考えたことが全部、自分の内面に返ってくる。自己成長が促されるという点で、小学校高学年から中学生の、揺れ動く子どもたちにとって、意味のある文種だと思います。だから、「売り物となるような、きちんとした形で書く」ことを追究する必要はないんじゃないでしょうか。そこを求めると、先生も苦しいし、子どもも、苦しくて書くことが嫌になってしまふ。何を大事にするか、しつかり見据えて指導しないといけませんね。

宗我部 そうかもしれません。実生活で、子どもたちが随筆を書く場面はほとんどないでしょう。生活を支える力を身につけるというよりは、随筆を書くことを通して、

自己を表現していく楽しさを

一番に味わわせたい。

宗我部





認識や表現が磨かれることを期待するという指導がしつくりきます。中学校の立場としては、小学校では、「こんなかつこいい書き方も自分にできるんだ」というおもしろさ、自分を書き表す楽しさを、子どもたちが味わえるようにしてもらえたらと思います。書き方の部分は、中学校でより深めていくことができます。

青山 そうですね。自分が読んだことがある文章をまねして書く程度でいい。今や、あまきみこさん、工藤直子さんのものなど、子どもが読むのに適した話題と分量の随筆がさまざまにあります。モデルにする文章には苦労せずとも出会えますからね。

宗我部 子どもたちの関心に触れやすい作家のものからモデルを選んで、教室にそろえたり、授業で扱ったりするというのはいいですね。幾つも重ねて読むことで、「随筆って、こういうものなのかな」と、なんとなく分かってくるところもあるんじゃないでしょうか。

キーワードは「ひこう」

青山 随筆には、重きの置き方によって、中学校で論説や評論に枝分かれしていく「入り口」となるといふよさがあるんです

ね。「随筆とは」と突き詰めるのではなく、「自分が経験・見聞きしたエピソードを中心に」程度の条件を念頭に置き、あとは気楽に取り組んでいけたらと思います。

宗我部 それから、ものの見方に触れることも。「この人らしさ」のよさが感じられるのはどこか」などと問い返すことで、モデルの文章に、内容的にも触れていくようにしたいものです。

青山 キーワードは、「〇〇らしさ」ですね。**宗我部** ええ。モデルの文章を読み、「いいな」と思う点を指摘し合うことで、その人の見方や表現のおもしろさ、「らしさ」が浮き彫りになる。それが、随筆的なものの見方につながっていくのでしようし、自分が書くときのモデルにもなっていくはずです。

青山 教科書の「ふわふわの雪」の扱い方も工夫ができそうです。「随筆とはこういうもの」というためだけに「示すのではなく、中川さんらしさがどこにあるか立ち止まらせてから、書くことに入るのがいいですね」。

宗我部 そういうことの積み重ねで、少しずつ、経験を対象化して見る目が養われていくんだと思います。

！授業のヒント

今回の対談とこれまでのご実践をもとに、青山先生が挙げてくださった「随筆を書く」授業での手立ての工夫を、四つのプロセスに分けてご紹介します。

1 題材を決める

「どんなことでもいいから、自分の生活の中から題材を探して書きなさい」というのも一つの方法です。しかし、なかには、書きたいことがなかなか決まらず、題材選びに時間がかかる子どももいることでしょう。こちらでテーマを決めてから取り組ませるようにすると、随筆を書くときに大切にしたい「自分を見つめ直す」「出来事を対象化して見る」ことに重点を置くことができます。幾つかの例をご紹介します。

論語

論語が手がかりとなり、生活の中での出来事とそれについての考えを導き出しやすくなります。

※対談の中でも触れられていますが、実践の詳細は『古典が好きな子』(光村図書)に掲載。

「たのしみは」

教科書教材「たのしみは」(六年P78)を活用し、「自分が『たのしみ』を感じるとき」というテーマで、その理由とエピソードを詳しく書くようにすれば、随筆を書くことにつながられます。

「季節の言葉」

教科書教材「季節の言葉」で季節感を味わった後、「私がその季節を感じるとき」というテーマで随筆を書かせます。「自分にとっての思い出の夏は……」など、低学年での「夏見つけ」とは少し違った、「イメージとしてのその季節」を取り上げる子も出てきます。

『枕草子』の「ものづくし」

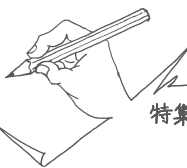
「ものづくし」の段からテーマをとります。「清少納言らしさ」がよりくつきり見える段なので、「自分だったら」と、題材を見つけやすいと思います。「うつくしきもの」「にくきもの」など、幾つかの段を読ませたり読み聞かせたりし、そこから選んで書かせます。

腹立たしきもの

夜にねようとすると、自分の使っている枕に弟の足が乗っているとき。わざわざどこかしなければならぬ上に、持ち上げるとぐずる。早くねたいと思うのに、ぐずられるとても腹立たしい。

また、パソコンや電子辞書で、何度も何度も文字を打ちまちがえてしまうときもかなり腹立たしい。ただでさえ起動に時間がかかるのに、さらに時間がかかってしまい、すごくいらぬ。特に好きなことについて調べているときだと、さらにいらぬ。

▲『枕草子』の「にくきもの」の段からテーマをとって、腹立たしいものについて子どもが書いた短い文章の例。「自分らしさ」がよく表れている。



2 構想を練る

伝えたい相手とメッセージを
初めに決める

「初め・中・終わり」で構成を考える

3 記述する

書きだしを工夫する

An illustration of an open book with lines representing text on its pages, and a folded newspaper with a visible masthead and columns of text.

逆接の接続詞を使う

◆伝えたい、訴えたいメッセージ

◆伝えたい相手（読み手）

小学校高学年
(5歳)

◆ 文体（～風）とその特徴

大江健三郎 風

自分の経験した事を書いてゐる。
ダッシュを多く使っている。

文体をまねる——「○○」風

司馬風

さくらももこ風

・話しかけるように書いている
・自分の経験も多く含んでいる
・思ったことを一気にバツツと書いては
・子供でも読みやすい
・ほとんどが短めの一文。

マヤ実態に応じて、「今まではこうだった。でも——」など、接続詞の前に入る文や言葉を決めるのもよいかもしれません。

◇序論（話題提示・書き出し）

洋字が上かるにつれて、秘達はいんぐん言葉が乱れてきた。例へば、
 私も傳へてゐるのださー。グアイヤ、グシと、う言葉を毎日傳へてゐる。
 そして、乱暴な言葉や下品な言葉も並通に傳へようになつた。

◇本論（具体例などを箇条書きする）

・具休例…二部六年のみんが使、ている言葉、私自
が使っている言葉
・以前、電車の中で見た(聞いた)低学年の言葉
・常域内の言葉(例)

◇結論（メッセージ・読み手が行動できるように具体的に述べる）

乱暴な言葉は、――あまり使わないのが一番良いんだ。――
 立場に立ち考えて言う。――あちまのようだが、本島に本物なことを
 と思う。そして下品な言葉もやはり使わない。がベストだ。
 常識を考えて、以前青木先生が言っていたように――常識
 内の言葉を選ばなければ、別にいいと思う。

4
交流する

共通のテーマのもとで書かせると
テーマが同じ分、物事の切り取り方・
見方の違いが際立ち、それらに目を
向けさせやすくなります。ですから
その場合は、「自分のものの見方と
の違いを見つめる」といった観点が
生きてきます。

いっぽう、それぞれに自由なテーマで書かせたとしたら、表現のしかたや「この出来事からこんなことを感じるのか」という「その人らしさ」に子どもたちは着目するでしょう。ねらいと学習への取り組みせ方を踏まえたうえで、読み合うときの観点を示すようにします。

その悩み、
解決します！

5

夏休み明けの授業

日々、子どもたちを教える先生方が抱えるお悩みの中から一つを取り上げ、解決のためのアドバイスを掲載するコーナーです。
今回は、松永立志先生と安田恭子先生にご登場いただきます。

お悩み

夏休み明け、子どもたちは、一学期に積み重ねたことの多くを忘れてしまっているようです。二学期の学習のスタートにあたって、意識のモチ方や工夫などを教えてください。



まずは、夏休み後の子どもたちはどんな状態にあるのか、子どもたちの変化をどう捉えればよいのかについてうかがいたいと思います。



鎌倉女子大学 准教授
松永立志

！
解決
のために

1 夏休み明け、子どもは大きく変容しているはず。
その心積もりをもって、微妙な変容を逃さず捉えるようにしましょう。

価値観の多様化に伴う変容

家庭や保護者の価値観の多様化は、子どもに大きな影響をもたらします。夏休み明け、一回りたくましさを増したように見える子どもは、水泳や祖父母宅への訪問、家族旅行など、きつと夏を満喫してきたでしょう。しかし、色白のまま登校してきた子どもは、塾の夏期講習や屋内でのゲーム遊びなど、さまざまな原因により、生活習慣が乱れてきていることが考えられます。

夏休み中の子どもたちの貴重な体験を学級経営に活用するのは当然ですが、その多様さには注意深く対応する必要があります。例えば、体験したことをスピーチしたり文章に書いたりするという学習活動は、多くの学級で見られるものです。しかし、話題にできるような体験をしていない、話題にしたいくない体験ばかりだったこともあるでしょう。活動に入る前には、子どもの状況を把握するように努めます。そ

のうえで、体験の内容例を多様に示す、全員に単一の表現方法を課さないなどし、学習内容や方法の複線化を考えることが重要でしょう。

学校から離れることに伴う変容

子どもたちの中には、長期間、学校生活から離れて生活したことで、夏休み以前に身につけた学習習慣が乱れたり、学習意欲が低下したりするという傾向が見られることもあります。特に、一年生で、学校や学級への適応に退行が起ったときには、いわゆる学級崩壊的な現象が、一時的に見られることもあります。

そこでまず大切なのは、「夏休み前にできていたから、休み明けも同じようにできるだろう」と思わず、「もう一度やり直そう」というくらいに考えるということです。そして、学習や生活のルールなどを再確認したり、新たに作ったりする場を設けることが必要でしょう。休み前の生活や学習の跡が

高学年女子の発達に伴う変容

振り返れるような資料や掲示物を、子どもが常に目にするができるよう整えておくことも効果的です。

特に高学年の女子に見られる傾向の一つに、これまで活発で幼い行動を取っていたのに、急にしつとりと落ち着いた行動を取り始めるという変容があります。加えて、教師のところにあまり話をしに来なくなったり、ひそひそとささやき合いながら目配せをしたりするなど、陰湿と思われる行動も目につくようになります。

これらの変容は、大人に近づくための発達段階の一過程と捉えて、今まで以上に、個人や集団に積極的に働きかけながらコミュニケーションを図るようになります。同時に、学級全体に働きかけながら、学級行事の計画や実施の機会などをうまく使い、明るい学級作りに取り組むことが重要です。

その悩み、
解決します！

5 夏休み明けの授業

まつなが
たてし
松永立志

鹿児島県生まれ、横浜市教育委員会事務局教育課程開発課長、学校教育部長、横浜市立東小学校校長等を経て現職。「小学校学習指導要領解説国語編」作成協力者。
主な編著書に「小学校新学習指導要領の授業 国語科実践事例集 1年・2年生（小学館）など。光村図書 小学校 国語 教科書編集委員会」。

授業の進め方や環境作りなどに関して、意識したいのはどんなことでしょうか。



2 新学期はステップアップのよい機会。教室の掲示や「関わり合い」の授業を意識することで、心地よい国語学習へのいざないを。



元新宿区立西戸山小学校 教諭
安田 恭子

二期生のスタートを好機に！

学校生活に学期の節目があるのは、とてもよいことです。なぜなら、今まで学んできたことをステップアップさせたり、うまくできなかったことをリセットして、再チャレンジしたりする機会となるからです。

例えば、新出漢字の学習について、一学期は国語の授業中に全てを丁寧に指導していたけれど、二学期からは、筆順や読み方が特別なもの、組み立てが難しいもの以外は、家庭学習で取り組むよう指示することで、日常の授業が充実します。あるいは、ノートの使い方が適切でなかった児童には、見本を示し、二学期からはそれを見ながら

ノートを取らせることで、児童が自信をもてるようになります。

二期生の国語びらきでいたいこと

始まりの一週間、何よりまず大切にしたいのは、児童一人一人の不十分さを受け止めるようにすることです。否定することは避けましょう。「夏休み中、何していたの」「どうして、こんなことが分からないの」などといった言葉は禁句です。

さらに、毎授業の冒頭三分で、学習の基本となるルールを繰り返しチェックします。机の上の教科書・筆記用具等の置き場所、いすに座るときや書くときの姿勢（下図）、きちんとした返事や受け答えのしかたなど、基本が崩



書くときの姿勢については、『国語』教科書の付録（1年上P122）を参考にすることができます。

れたまま学習が始まってしまつと、修正に余計な時間がかかるからです。

また、既習の学習用語や教科書の「たいせつ」コーナーの内容（身につけさせたい力）を簡単なクイズ形式で振り返るのもよいでしょう。例えば、「引用とは、本に書かれていることを、文章や話の中で用いることである。〇か

×か」などと、学習の初めや終わりに一、二問ずつ出題するのも、児童にとつてはよい復習になります。

体験や思い出の、上手な共有のさせ方

「夏休み中、どこかに連れていかないと、子どもが、学校で肩身の狭い思いをする」という、保護者からの声を耳にすることがあります。「夏休みスピーチ大会」などと安易に銘打って行うことで、スピーチが児童の体験自慢大会になってしまうことは、心して避けてはなりません。

例えば、中・高学年ではコース別スピーチを行ってみてはどうでしょう。アート（絵、工作等の話）、サイエンス（採集、実験等の話）、フィジカル（スポーツの練習、試合等の話）、カルチャー（読書、歌、詩作等の話）、トラベル（旅行等の話）などのコースに分かれてグループ内でスピーチをする

といった工夫です。他にも、「夏休み新聞」を作り、自分の成長を報告し合うことも考えられます。

掲示に配慮する

夏休み明けは、どの教室でも、休み中に取り組んだ作品が、「夏休み作品展」と称して展示されます。しかし、九月末に教室を訪れてもまだ、展示がそのままなことがあります。夏休みの作品展示は、長くても二週間。その後はできるだけ早く、二期生の学習に関わるものへと掲示を切り替えましょう。ひと言感想と自分の名前を書いたカードを貼るなどして交流を見える形にすると、掲示が学習の場の一つとなります。

学び合い・関わり合いを考えて

学校で学ぶことのよさは、多くの友人とともに学び合えることにあります。夏休み明けの学習では、学び合い・関

わり合いを大切にして学習を進めましょう。

例えば、教科書には、二期生初めに詩教材が位置づけられています。一人で音読するだけでなく、リレー読み、掛け合い読みなどを多く取り入れ、みんなで協力して一つの音読作品を仕上げることも考えてみましょう。

漢字の学習では、グループ対抗で問題を出し合ったり、得点を競ったりして学ぶこともよいでしょう。

さらに、発表・話し合い・討論などの「話す・聞く」の学習では、三人程度のグループ内で発表や話し合いをしたり、グループ対抗で話し合いや討論をしたりするようにします。

協力して学ぶ場を多く設定することで、ともに学ぶ楽しさを味わい、心地よい国語学習に児童をいざなっていきたいものです。

やすだまうこ
安田 恭子

福島県生まれ。新宿区立津久戸小学校教諭をスタートに、西東京市、中野区を経て、新宿区立西戸山小学校で定年退職を迎える。日本国語教師の会、樺の会会員。共著に、『小学校国語科学習指導の研究』シリーズ 東洋館出版社 などがある。



7 「わたしはおねえさん」(二年下)



ちよつと確認
なぜ今、言語活動なのか

今回は、「わたしはおねえさん」(二年下)を例に、指導事項と言語活動・教材・児童の実態から授業を組み立てていく教材研究のしかたについて述べていきたいと思っています。しかし、その前に、よい機会ですから「単元を貫く言語活動」について振り返っておきたいことがあります。そもそも、なぜ、「言語活動の充実」は求められているのでしょうか。

もともとの背景には、中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(平成二十年一月) 答申があります。ここには、「知識・技能の活用など思考力・判断力・表現力等をはぐくむ」ために重要なものとして、六つの学習活動例が掲げられています。

指導事項・言語活動を
確認しよう

「言語活動の充実」が取り上げられる理由、国語科への期待の大きさについて認識できたところで、「わたしはおねえさん」の教材研究に入っていきたいと思います。

まずは、教科書で想定されている指導事項の確認です。教科書P48冒頭、単元名には、「お話のじんぶつと自分をくくって読もう」とあります(※1)。これが児童に示された、学習の目標です。そして、リード文(※2)には、この文章をどう読んでいくかという、児童にとつての心構えが二つ掲げられています。それぞれ、どのように読むことを促しているのか、そして、どんな指導事項と結び付いているのかを考えてみましょう。

一つ目、「すみれちゃんは、どんなことをしましたか。」では「行動に着目する」

平成二十年告示の学習指導要領にはこ

の内容が色濃く反映されました。とりわけ顕著なのは「総則」(第4 2①)であり、どの教科等の指導においても、単なる知識理解にとどまるのではなく、それらを活用して思考力・判断力・表現力を育成する学習活動、いわゆる「言語活動」を位置づけることが求められています。

そこで、国語科の役割です。前述の中央教育審議会答申では、国語科の改善の基本方針が「言語の教育としての立場を一層重視し、……各教科等の学習の基本となる国語の能力を身に付けること」と明記されています。この「国語の能力」が、学習指導要領に「二年下」で示された、三領域一事項の指導内容なのです。こうした改訂の趣旨からも、国語科が担う役割の大きさを再認識することができると思います。

※1

わたしはおねえさん

お話のじんぶつと自分をくくって読もう

すみれちゃんは、どんなことをしましたか。あなたなら、どうしますか。

※2

歌を作るのが好きな すみれちゃんが、また一つ、歌を作りました。こんな歌です。

わたしはおねえさん

やさしいおねえさん
元気なおねえさん
ちっちゃなかりんのおねえさん
一年生の子のおねえさん
すこいでしょう

「おねえさんって、ちよつびりえらくて、やさしくて、がんばるもので、ああ、二年生になってしあわせ。」
この歌を歌うたびに、すみれちゃんは、そう思いました。

49

けさも、この歌を歌っています。

十月の日曜日の、気もちよく晴れた朝でした。そんな朝にこの歌を歌うと、お天気も、すみれちゃんの気もちも、もつとびかびかとかがやのように、すみれちゃんには思えるのです。そして、えらいおねえさんになって、りっぱなことをしたくなりました。

「そうだ。」

と、すみれちゃんは言いました。

それから心の中で、「えらいおねえさんは、朝のうちにしゅくだいをするんだわ。」と言いました。

同じことを おかあさんに言われると、あまりいい気もちはしません。けれど、自分から思ったときは、すこい気もちです。すみれちゃんには、それがふしぎでした。

すみれちゃんは、つくえの上に、教科書を広げました。ノートも広げました。

でも、しゅくだいをはじめようとしたら、外が気になってきました。すみれちゃんのつくえのすぐよこには、まどがあって、かだんが見えます。かだんには、春にたねをまいたコスモスが、

51

ウ 場面の様子について、登場人物の行動

指導事項、

発表し合うこと。

ているのだともいえそうです。

の言語活動例である、

本や文章を読んで、感想を書くこと。

ます。

元での大きなポイントといえるでしょう。

ます。

- に着目させる。

像とせる。

童も、主体的に学習に参加できます。

「わたしはおねえさん」だけでは不十分

いが呼応していることが分かるでしょう。

りながら、読み進めます。

た（前ページ参照）。ここでは、歌を歌うと、

ことが大切です。

-
-
-

を工夫して授業に臨みましょう。

広島県生まれ。二十三年の教員生活の後

港区教育委員会指導主事、東京都教育庁主任指導主事、小学校校長等を経て

現職。光村図書小学校『国語』教科書の編集委員を務める。

※3 「教材研究のススメ」 1（小誌74号）、2（小誌75号）で特に詳しくご説明しています。

1 書写とよい出会いを

「書写好き」に

広島県尾道市立向東小学校 教頭 藤井浩治



書写指導のエキスパートであり、
光村図書 小学校『書写』教科書の編集委員でもある藤井先生に、
六回にわたって連載していただきます。
第一回は、書写が好きになるような、
書写授業との出会わせ方のアイデアをご紹介します。

1 書写大好き

初めて漢字を学習する一年生は、わくわくどきどき、少し大人になったような気持ちで、小さな指でゆつくりとノートに書いています。早く誰かに見てもらいたくて目がきらきらしています。初めて毛筆書写を学習する三年生。新しい書写用具を机に並べながら、子どもたちみんなの顔には「早く書いてみたい」という気持ちがいっぱいに表れています。

しかし、さまざまな学校の研究会で児

童アンケートなどのデータを見ると、高学年になるにつれ「書写が好き」と答える子どもは少なくなっています。

小学校では、書写以外にもその子の人生にとって初めての出会いの場面がたくさんあります。私は「書写とよい出会いをさせたい」と、いつも心掛けて授業に臨んでいます。今回は「書写とよい出会い」をさせるためのアイデアについて、毛筆書写を中心にいくつか紹介します。

2 筆の持ち方と姿勢

わくわくしている子どもたちに、自由に体験させればよいというわけではありません。筆の持ち方と姿勢は書写学習の基礎・基本です。これを徹底できなければ、すぐに書写嫌いな子どもたちを作ってしまう。

(1) 筆を立てて持たせる「十円玉」

毛筆は硬筆と違って、穂先が柔らかいという性質があります。硬筆は軸を傾け

ても安定して書くことができますが、毛筆は軸を立て紙に対して垂直に穂先を下ろさないとうまく書くことができません。

そこで、「筆を立てて書きましょう」という指示をすると、子どもたちはみんな筆を立てることができますが、実際に書き始めると同時に筆は傾いてしまいきます。

これを解消するために、私は、初めて筆の持ち方を指導するときにちよつとしたパフォーマンスをしています。垂直に立てた筆の軸の上に「十円玉」を乗せて、子どもたちの前で筆を動かして見せるのです。子どもたちからは思わず歓声が上がります。そして、「筆は、このように十円玉を落とさないように書くよ。さあ、みんなできるかな。書いてみましょう」と指示を出します。

実際に十円玉を乗せて書かせるわけはありませんが、十円玉のイメージを頭に浮かばせることで、軸を立てることに意識を集中させます。机間指導をしながら「十円玉が落ちそう」と言うと、子どもたちは慌てて軸を立てるようになります。習慣になるまで徹底して指導していきます。

(2) 肩と同じくらい肘を高く

書写の姿勢の留意点はいくつかありますが、特に大事にしたいのが「肘」の高さです。毛筆書写は硬筆と違って大きな文字を書きます。肘が下がって脇が閉じてしまうと、腕を自由に動かすことができず、右下がりや極端に小さな文字になってしまうのです。

ここでもイメージが大切になってきます。子どもたちの前で、まず脇を閉じて筆を動かして見せ、次に肘を思いっきり高くして大きく筆を動かして見せます。「どちらのほうが、筆のびのびと動いているでしょう。そうです。肘を高く上げていくほうですね」と。

3 用具の扱い方

(1) 掲示の功罪

子どもたちが半紙に毛筆で書いた文字を、教室の後ろに一斉に掲示してある光景をよく見かけます。授業の評価として有効であるともいえますが、このことで書写嫌いな子どもたちを作ってしまうこともあるので、注意が必要です。

図画工作科で制作したものと違って、全く同じ文字が並びますから、誰が見ても一目で優劣が分かっています。書写の苦手な子どもたちは、自分の文字が下手であるということを実感して、劣等感が蓄積されてしまうのです。

掲示してある文字のうち、うまく書けていない文字を観察してみましょう。極端に「小さい」「細い」「かすれた」もの



肘の高さを意識して書いている様子。

に目が止まるはず。つまり、この三点に気をつけて指導をすれば、極端に劣って見える文字がなくなり、子どもたちの劣等感も軽減することができるということです。

実は、この三点については、用具の取り扱いに関係があります。筆の手入れが悪いと、根元が硬くなつて筆の穂が開かなくなるとともに、墨含みが悪くなります。すると、文字が細くなり、墨が不足してすぐにかすれますし、長い線を引くことができず文字が小さくなってしまうのです。

(2) 筆の手入れ

筆は根元に墨が残らないように、しっかりと洗わせるようにします。しかし、学校に洗う場所がなかったり、時間の制約があったりして十分に洗わせることが困難な場合がよくあります。

その場合には、下に雑巾を敷いた筆洗用のバケツを教室に用意して洗わせませす。または、授業前に水を入れた個別のペットボトルを用意させておいて、洗わせるようにします。十分ではありませんが、洗ってから筆を片づけるという習慣をつけることが大切です。そして、月に一回以上は、家で筆をしっかりと洗うこ

(4) 用具に関するその他の留意点

●書写バッグの置き場所、紙ばさみの置き場所を決めておく。

●余った反故紙をストックする箱を準備して、反故紙が不足する子どもに取らせるようにする。

●小筆は、根元をのりで固めた状態で使用するので、水で洗わない。墨の付いた穂先部分を拭き取るだけにする。

●ごみ箱や筆洗用バケツは、教師の見える場所に置く（捨て方や洗いが乱雑にならないように指導ができる）。

4 書写の準備体操

姿勢と執筆、用具の取り扱い方が定着したら、次は筆使いです。漢字は全て基本点画の組み合わせですから、「横画・縦画・折れ・左右の払い・点・曲がり・反り」などの基本点画は重要です。

三、四年生のうちに基本点画を書けるようにしておかなければ、本来の授業のねらいである「文字の組み立て方」や「点画の組み立て方」の学習に集中することができません。私は、基本点画の復習と習得をねらって、授業の初めに、自作の基本点画プリントを活用した「毛筆準備

とを宿題にして取り組ませます。これで「小さい」「細い」「かすれた」作品が姿を消し、稚拙な作品が目を引くこともなくなります。

(3) 用具の準備と片づけ

毛筆書写は用具の準備・後片づけに時間がかかるので、学習時間を十分保障できなかったり、書写を億劫に思ってしまう子どもを作ったりしてしまいます。できるだけ準備や片づけをパターン化し、手順を写真にして「見える化」を図り、定着させることが大切です。

【準備の一例】

- ①書写係が筆洗用のバケツに水をくみ、雑巾を敷いて準備する。
- ②机の上に、下敷き、すずり、筆、鉛筆等を準備し、本時に使用する枚数の半紙を机の中に入れる。
- ③バケツの水で筆を軽く湿らせると、硬くなった筆がなじんで書きやすくなる。
- ④紙ばさみ（下図）を机の横に掛ける。

【片づけの一例】

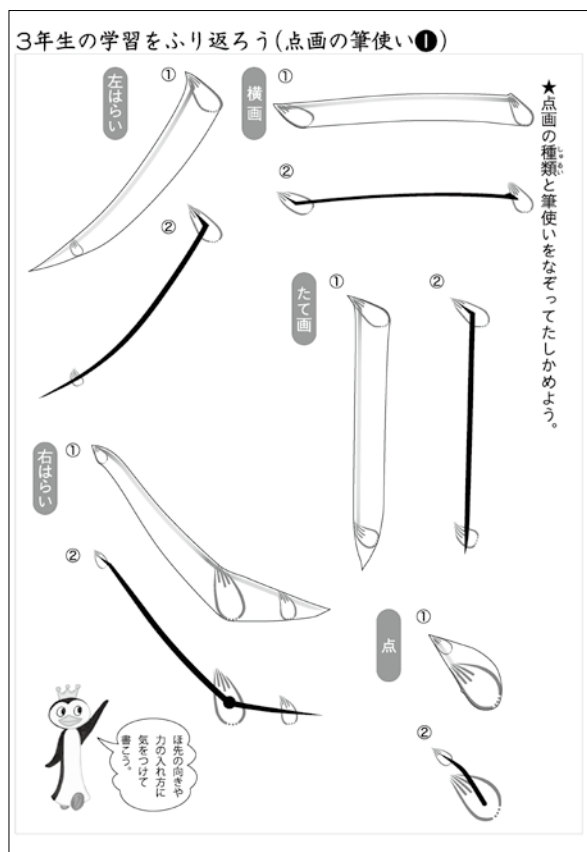
- ①すずりに残った墨を大筆に付けて反故紙（練習し終わった半紙）で拭う。
- ②反故紙をたたんで、すずりの墨を拭き取る。
- ③反故紙を一枚持つて筆洗用のバケツの場所に行き、大筆の穂を水の中ですぐ。水を滴らせないように反故紙で拭う。
- ④拭った反故紙で小筆の穂先の墨を拭き取る（小筆は水で洗わない）。
- ⑤大筆と小筆を筆巻きに収める。
- ⑥書写バッグに用具を入れる。
- ⑦書写係がバケツの水を捨て、雑巾で床を拭く。

体操」をしています。「学習指導書」付録DVDに収録されているワークシート（左図）を活用することもできます。繰り返すことで、始筆の角度や穂先の通り道などが、自然に意識できるようになります。

5 終わりに

書写とよい出会いをさせ、その意欲を継続させていくためには、基礎・基本を

徹底していくことが大切です。筆の持ち方・姿勢・用具の手入れや準備、片づけ・基本点画の筆使い等、今回取り上げた内容は、全て書写学習の基礎・基本です。学習指導要領においても「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」「学習意欲の向上・学習習慣の確立」の重要性が挙げられています。基礎・基本の知識・技能を身につけることで、子どもたちの書写に対する劣等感を取り除き、自信をもって学習に臨ませることができると考えています。



「学習指導書」付録DVDに収録されているワークシート。



『書写』教科書3年P3より。

絵本を原典とする教材の挿絵変更についてののお知らせ

第一編集部小学校国語課

■挿絵の変更について

本年四月に発行しました、「小学校国語教育相談室79号」でもお知らせしましたように、教科書会社に対し、著作権管理会社より、絵本を原典とする作品の挿絵利用に関して、*「同一性保持権」の観点から、原典の絵と同様の使用を求められました。弊社としては、著作者の権利を尊重しながらも、学習者にとってよりよい教材として教科書で提示することへの理解をいただけるよう、交渉を重ねてまいりました。しかし、前号でお知らせした二作品に加え、次の作品につきましても、平成二十六年度用供給本より、挿絵の使用を原典と合わせることにいたしました。

・二年上巻『スイミー』（レオ・レオン・作・絵）

先生方にはご指導の際にご配慮いただきますようお願い申し上げます。

*「同一性保持権」は、著作権法の一つで、「著作者は、その著作物及びその題号の同一性を保持する権利を有し、その意に反してこれらの変更、切除、その他の改変を受けないものとする。」(第二〇条)というものです。

■『スイミー』掲載のこれまでと著作権保護の今日的な観点から

これまで弊社は、絵本を原典として教科書に掲載する際には、作品のイメージを大切にするとともに、子どもたちがその世界に十分浸ることができるように配慮してまいりました。『スイミー』も、そのような作品の一つです。

本作品は、昭和五十二年度版が初めての掲載になります。当初は、かすや昌宏先生の挿絵により教材化をはかっておりましたが、これは、原典である『スイミー』が、横書きで書かれた絵本であり、絵の中のスイミーが、話に沿って左から右へ進んでいくように描かれていたためです。

「国語」教科書は、日本語学習の特性を配慮して、基本的に縦書き表記になっています。そのため、横書きで書かれた絵本の絵を教科書にそのまま掲載しようとすると、登場人物の動きなどが、話の流れと逆行して見えてしまう場合があります。

当初、絵本の絵を反転して使用することが認められなかったため、かすや先生に教科書のために絵を描いていただき、掲載しております。

ました。その一方で、作者であるレオ・レオン二氏とも交渉を重ね、絵本の絵を反転した形で使用することにご了承をいただいたのが、昭和六十一年度版のことです。以降、レオ・レオン二氏の文章と絵で、『スイミー』を掲載し続けてまいりました。

挿絵の反転使用は、描かれた登場人物などが、話が進む方向に向かって進んでいくように見えるようにという、学習上の配慮の見地から行っていたものです。しかし、冒頭にも述べましたように、このたび、著作権管理会社からの申し入れがあり、原典の同一性保持に関しては守られなければならないものとの判断から、弊社では、平成二十六年度教科書より、挿絵の使用を改めることといたしました。

書籍だけで成立していた時代とは異なり、今日の情報ネットワークの世界的な広がりや、デジタルコンテンツの一般化の中で、著作権はよりいっそう厳密に保護されるべき状況になっております。

先生方には大変ご迷惑をおかけいたしますが、なにとぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

国語 平成26年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

平成26年度用教科書では、平成25年度用から以下の箇所を訂正しております。校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には、十分ご留意くださいますようお願い申し上げます。

学年	巻	ページ	行など	25年度	26年度
2年	上	46-55	挿絵		原典に合わせて変更。
4年	上	108	筆者紹介	大島健甫 一九二四年、岡山県生まれ。作家。視覚障害者のテープ雑誌を作っている。	大島健甫 一九二四～二〇一三年。岡山県生まれ。作家。視覚障害者のテープ雑誌を作っていた。
6年		220	右4段目解説	「肝だめしの夜に」	「肝だめしの夜」
		252	筆者紹介	一九一三年、静岡県生まれ。	一九一二年、静岡県生まれ。

平成26年度「言語教育振興財団」研究助成金一般公募

言語教育（国語教育・外国語教育等）の充実・発展を図るために、理論と実践の分野について優れた研究開発を行う団体または個人に対して助成します。

助成内容	①言語教育の内容・方法に関するもの（教育内容・方法部門） ②言語教育教材の質的向上に関するもの（教材部門） ③教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの（教育機器部門）
研究期間	平成26年4月～平成27年3月（原則1年間）
応募資格	言語教育（国語、英語、日本語等）に関して研究開発を行う教員及び教育開発を行う小・中・高等学校・大学・教育研究団体（学校の学年・教科単位を含む）
助成件数及び金額	助成件数は50件まで。助成金額は1件につき20万～40万円
応募方法・締め切り	・所定の申請用紙に記入の上、研究開発活動についての企画書または実施した実践報告書等の参考書類を添えて、平成25年12月20日（金）必着で、当財団事務局に郵送。 ・申請用紙を希望される方は、返信用封筒（80円切手添付）を同封の上、当財団事務局までお申し込みください。 ・この応募要項については、都道府県教育委員会等推薦の場合も同様に扱います。
決定・発表	当財団「選考委員会」にて選考を行い、選考結果を平成26年2月末までに通知。平成26年3月末に銀行振り込みで交付します。
問い合わせ先	財団法人言語教育振興財団 事務局 〒141-0021 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL 03-3493-7340 FAX 03-3493-2174 E-mail:gengo-k@star.ocn.ne.jp